

南海トラフとは何か

日本列島が、北米プレート、ユーラシアプレート、太平洋プレート、フィリピン海プレートという4つのプレートがせめぎあう、世界でも珍しい位置にあります。日本海溝で北米プレートの下に太平洋プレートが沈み込み、南海トラフでユーラシアプレートの下にフィリピン海プレートが沈み込んでいます。つまり南海プレートは、日本列島付近にある2つの沈み込み帯のうちの一つです。

トラフ（海盆）という言葉はユーラシアプレートの下にフィリピン海プレートが沈み込んでいるプレート境界をいいます。プレート境界型地震が多発する場所であり、マグネチュード8を超える巨大地震が約100～150年の間隔で周期的に発生しています。

巨大地震の発生間隔が長いのは、例えば、日本海溝では50～100年程度、太平洋プレートの動く速さが年間約8センチメートルであるのに対し、フィリピン海プレートは年間2～4センチメートルとゆっくりしているためひずみが溜まるのに長い時間がかかります。

南海トラフには、3つの震源域があります。

①想定東海地震の震源域

・静岡県の下から、浜名湖の沖まで。マグネチュード8.0程度、87%

②東南海地震の震源域

・浜名湖沖から、紀伊半島の潮岬（和歌山県）まで。マグネチュード8.5前後、

③南海地震の震源域

・潮岬から、高知県の足摺岬沖まで。マグネチュード8.4前後、60%程度。

東南海地震と同時発生の場合、マグネチュード8.5前後、



参考資料: NHKサイエンスZERO より